

標十五句

松岡隆子選

一ト日過ぐ遠ひぐらしは風となり	閑けさの極みに零れ花柳	薤を噛むと日暮れの音がする	姉逝きし朝のかなかな時雨かな	こんな日は秋の金魚をただ眺む	帽子脱ぎゆつくり歩く秋の風	遠の灯の流るる車窓秋に入る	行く人の誰もひとりづつ終戦日	存念の煮つまつて来し鶏頭花	かまつかや一雨もあらず十日過ぎ	盆の夜の最上階の予約席	迎火のけむりが先に入りけり	夕日まだ高きにありて凌霄花	交はりの淡くて長し棗の実	迎火に逆縁の胸照らさるる
中島紀子	小村絹代	田坂孝志	早川紀子	田中敦子	広渡詩乃	秋元きみ子	染谷晴子	川上昌子	松原ふみ子	唐木和世	別府優	渡辺あつ子	峰岸よし子	高橋愛子